TOSHIBA
Leading Innovation >>>

スタンダード住宅用分電盤　施工説明書

・この説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
・有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。

安全に関するご注意

⚠警告

・施工時、点検時には必ず主電源を切ってください。
電源が入ったままの施工、点検は感電・短絡の原因となります。

⚠注意

・主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。
相を間違うと異常電圧が発生し、発熱・発火の原因となります。
・主幹ブレーカ(単３中性線欠相保護付)の過電圧リード線は、必ず中性バーに接続してください。
取外すと単３中性線欠相検出による過電圧保護ができません。(単相２線式機種除く)
・端子ねじは適正締付けトルクで締付けてください。
端子ねじの緩みは、発熱・発火の原因となります。

■設置・施工に関するご注意

・住宅用分電盤は、容易に操作・点検できる場所に取付けてください。
戸棚・便所・浴室などの内部には取付けないでください。
・高温・多湿・じんあい・腐食性ガス・振動・衝撃など、異常な環境での使用は避けてください。機能を損ないます。
・屋内で使用してください。屋外や水のかかる場所には使用できません。
・住宅用分電盤は、右図に示す範囲内で使用してください。
・住宅用分電盤を取付ける壁面は、平らな面を選び、適切なねじ締め力で取付けてください。凸凹のある場所へ無理に取付けたり、ねじ締付け力が強すぎると、ベースがひずみ、正常な取付けが維持できません。
・住宅用分電盤の前面には、障害になるようなものを置かないでください。
・住宅用分電盤を照明器具(ダウンライトなど)の近くに設置する場合は、使用されるダウンライトの直下近接限度以上離してください。
・住宅用分電盤は、相線式・回路電圧に合わせて選んでください。
・単相3線式の中性線を中極に、電圧線(200V)を両端に接続してください。
単相2線回路には単相3線式機種は使用できません。
・盤定格電流を越える主幹ブレーカは取付けないでください。
・電線サイズは最大想定負荷電流に適合したものを使用してください。
主幹ブレーカ・分岐ブレーカに接続する電線は右表より選んでください。
・分岐ブレーカには、複数の電線を接続しないでください。
・圧着端子・圧着工具はJIS適合品を使用してください。また、電線に適合した圧着端子を使用してください。
・主幹ブレーカ2次側端子、接続部、及び付属機器取付スペースからの分岐配線・仮配線は行わないでください。
・施工完了後、ブレーカに端子カバーを確実に取付けてください。
・分電盤カバーなどは、取付け施工後、軽く引いて外れないことを確認してください。
・施工後及び点検時にはブレーカなどの導電部締付けねじ部の増締めを行い、ゆるみがないことをご確認ください。

側面から見た場合　正面から見た場合

導電部の接続ねじ適正締付けトルク

ねじの呼び径	締付けトルクN・m
M4	1.2～1.6
M5	1.6～2.0
M6	3.0～4.0
M8	5.5～7.0

備考：機器端子M５圧着方式の場合は 2.0～2.5N・m

主幹・分岐ブレーカ適合電線サイズ

ブレーカの定格電流		電線サイズ
分岐	15A	φ1.6・φ2.0
	20A	φ1.6・φ2.0
	30A	φ2.6, 5.5~8.0mm²
主幹	30A	φ2.6, 5.5~8.0mm²
	40A	8.0～14.0mm²
	50A・60A	14.0～22.0mm²
	75A	22.0～38.0mm²
	100A	38.0mm²

■使用上のご注意

・分岐回路を200Vで使用するときは、必ず2P2Eの分岐ブレーカを使用してください。
分岐回路の電圧切替え手順は、商品に貼付している説明書に従って行ってください。
200Vに切替えた場合は、必ず200Vの表示をしてください。
・線間の絶縁抵抗測定は漏電ブレーカが故障します。
・線間電圧による感電は、漏電ブレーカで保護できません。
・電路と大地間の絶縁抵抗測定の際は、単3中性線欠相保護付主幹ブレーカの場合、中性バーから過電圧検出リード線を取外して測定してください。測定後は必ず中性バーに過電圧検出リード線を接続してください。
中性線欠相保護検出による過電圧保護ができません。
・漏電ブレーカ付の商品は、工事完了後、ハンドルをONにしてからテストボタンを押して、動作の確認をしてください。
・不要動作などを防ぐため、商品に表示してある定格電流の80%以内でのご使用をお奨めします。

■清掃について

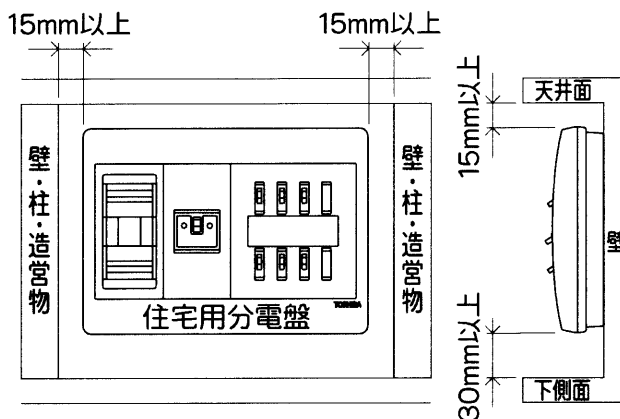
・住宅用分電盤の清掃は乾布で行ってください。
・シンナー・ベンジンなどの薬品、油、酸性・中性・アルカリ性洗剤を住宅用分電盤に付けないでください。
　樹脂が変色・劣化・破損する恐れがあります。
・住宅用分電盤内部の清掃は、絶対に行わないでください。
　感電の原因となります。

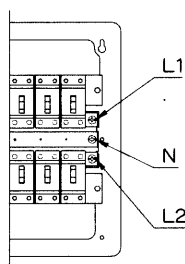
■住宅用分電盤取付け方法及びご注意

・本体の取付けは、天井面・両側面から15mm以上、下側面から30mm以上の間隔(隙間)を設けてください(右図)。

◆配線工事方法◆

・半埋込取付け時などで、主幹用ケーブルなど太いケーブルを上側面より盤内に引込む場合は、引込みを容易にするため、外装被覆をむいて電線部のみ入線してください。
・下列の分岐ブレーカへの電線接続は、分岐ブレーカ裏面配線スペースを通して施工することができます。
・内部機器は一括して取外すことができます。(木板は取外しできません。)
・ベースの配線孔に合わせて壁に穴を開けてください。付属の型紙を使用することにより、壁の配線孔位置が簡単にけがけます。

・定格電流30Aの単3JIS互換性形漏電ブレーカは、中性極が2本ねじとなっており、中性極のみ電線のストリップ寸法が長くなっています。
　漏電ブレーカに表示してあるストリップゲージを参考にストリップしてください。(中性極20mm、電圧極12mm)
　端子ねじの締付けは、奥のねじを先に締め、上下を交互に反復締付けを行ってください。

■送り端子への電線接続

・送り端子(M6)への電線接続は、適合圧着端子を使用してください。(*1)
・端子ねじは適正締付けトルクで確実に接続してください。
　適正締付けトルク 3.0~4.0N・m
・電線接続後は絶縁保護カバーを確実に取付けてください。

*1 横一列タイプは、送り端子がありません。

■アース中継端子への電線接続

・速結端子への接続は、電線をストリップゲージに合わせて12mmむき、奥まで確実に差し込んで抜けないことを確認してください。接続電線は、ϕ1.6・2.0 Cu(銅)単線専用です。
・電線を抜く場合は、リリースボタンをドライバーで押しながら電線を抜いてください。
・端子ねじ(M5)へ電線接続する場合の接続電線は最大5.5㎟です。
　圧着端子を使用してください。
　適正締付けトルク　1.6~2.0 N・m
・アース線専用です。電源線の中継(送り)には使用できません。

お願い

・工事が終わったら、商品に同梱してある取扱説明書に、施工電気工事業者名(指定がある場合は連絡先)をご記入後、お客様に取扱方法を説明し、お渡しください。

東芝ライテック株式会社 照明器具事業部
〒237-8510 神奈川県横須賀市船越町1-201-1
TEL (046)862-2103 FAX (046)861-8776

(06222)G

<生産完了 2012年02月22日>
TFK-4063B-2 (2/2)